

## 平成 30 年度 公益財団法人納税協会連合会会長賞

「僕たちの税への関わり方」

川上村立川上中学校 二年 森野 瑞喜

僕の家では、父が個人事業のため毎年確定申告の作業をしています。小さい時は何をしているのか全然分からなかったけど、所得税の計算のためであるということが中学生になってようやく理解できてきました。

日本には色々な税の種類がありますが、税を支払う中で人々が助け合うような形を国が制度として作ってくれています。

例えば、所得税のような累進税率により、収入の多い人ほど多く税を支払うというものや、消費税のような比例税率のもと、みんな平等に支払うというものもあります。

消費税は子供も含め、一人一人が物を購入するときにかかるものなので、八パーセントから十パーセントにあがるのは、嫌だと思ってしまうけど、今増え続けている国の借金を減らせることなどを考えると、とても理に適う方法なんだと今回の租税教室で感じる事ができました。

日本は世界の中でも自然災害の多い国であり、この六月から七月だけでも地震・大雨により、各地が大きな被害をうけました。そして、僕たちの村でも、近くの通学路が崩れてしまいました。どこの被災地でも「早く元通りの生活になってほしい」という人がたくさんいると思います。

でも、例えば今、近くの通学路を復旧させるために、被災地で避難している人の生活を支えるために自分達のお金や寄付だけでなんとかするのは、ほとんど不可能であると思います。

だから、税というものはなくてはならない存在なのです。

一方で、将来、若者への税負担が増えていくといわれています。少子高齢化が進み、社会保障の費用が増えるのに対し、その費用を負担する働き手が減ってきています。昔は高齢者一人を約九人で支えている状態だったのが、今では約二人になり、近い将来には一人が一人を支えるという状態になります。将来、僕たちにそんなことができるかとても不安です。

しかし今、僕たちの住んでいる川上村では、授業で使う教材費の無償化や、英検の受験、大きいところでは語学研修、修学旅行の費用、そして、習い事への補助金、部活動で試合に行くためのバスのお金など、色々なことの費用を出してくれています。

僕たちが学んだり、活動したり、一人一人が知識や資格を増やして育っていくために、たくさんの方の支援をしてもらっています。

そのことを忘れずにこれからも税に、そして社会に関わっていきたいと思います。